

授業概要

企業で製品を製造して販売したり、いろいろなサービスを提供するためにかかるものが「原価」です。この「原価」を計算する手続きを「原価計算」といいます。製品を製造するためには、材料費や人件費、電気代、水道代など多くの費用がかかります。そしてそうして出来た製品を販売するためには、広告宣伝費や交通費、通信費などの費用もかかります。原価計算では最終的に製品1単位、つまり自動車であれば自動車1台、テレビであればテレビ1台を製造して、販売するためにいくらかかるのかを計算していきます。本講義では、原価計算をはじめて学習する学生を対象に、講義中に練習問題を解きながら学習していきます。

授業計画

第1回	原価計算についてのガイダンス
第2回	原価計算の意義と目的、原価の分類
第3回	原価計算の手続きと種類
第4回	材料費の分類と計算原則
第5回	材料費の計算
第6回	労務費の分類と計算原則
第7回	労務費の計算
第8回	経費の計算
第9回	部門別計算の意義と目的、原価部門の設定と部門費の集計（第1次集計）
第10回	補助部門費の製造部門への配賦、製造部門費の製品への配賦と製品原価の計算、直接配賦法、階梯式配賦法
第11回	相互配賦法
第12回	個別原価計算①
第13回	個別原価計算②
第14回	個別原価計算③
第15回	まとめ
第16回	筆記試験

到達目標

「原価とは何か」「実際にかかった原価はどのように計算するのか」について、原価計算の基礎を学習し、日商簿記2級（工業簿記）レベルの実力をつけることを目標とします。

履修上の注意及び予習・復習

講義中に、練習問題を解くので、電卓を忘れずに持参して下さい。

評価方法

試験と授業に対する取り組みを総合的に判断して評価します。

テキスト

柳田仁編著『原価計算ガイダンス』中央経済社